

寺 報



第169号
 発行人 徳 伊 勢
 発行所 真宗大谷派 称念寺
 知立市新地町西新地65
 TEL (0566) 83-8888
 FAX (0566) 84-1262
 www.shounenji.com
 印刷 刷 株式会社 クシロ印刷

命と命と相念ず

あいねん

五月の中旬、幼馴染でもあ
 る地元の連れ^{ツレ}の命日に、旧友
 らを誘い彼の自宅のお内仏に
 手を合わせに行つた。寺から
 歩いて数分の近所で、同じ小
 学校、中学校に通い、その間
 には何度か同じクラスとなり、
 後年の予備校時代にも毎日の
 ようにポケベルで連絡を取り
 合い、文字通り長い時間^{とき}を一
 緒に過^とごした。スポーツやテ
 レビゲーム、酒も悪さも共に
 し、後に別々の人生を歩みな
 がらも折々に親交を重ねた。
 彼は仲間内では学校の成績は
 冴えなかつたが、昔から足が
 速く、素直で優しい性格は誰
 から愛され、大型のアメ車

を乗り回した学生時代のアル
 バイトも人一倍頑張つた。三
 十代で結婚し、実家の隣に立
 派な木造の家を新築した。し
 ばらくして一男一女の二人の
 子を授かり、四十代には確か
 ヘルニアであつたか、腰骨の
 病気で歩くにも若干不自由な
 障がいを抱えたが、懸命に働
 き続けたようだ。名古屋の安

居酒屋で偶然行き会つた際に
 は、会社の後輩を引き連れ元
 気な様子も見られた。

だが或る時、ガンになつた
 と彼の口から伝えられた。そ
 の事実^{おそ}に畏れおののき「まだ
 死にたくない」、家族も支え
 なければ」と、眠れない暗い
 夜が幾度もあつたらう。医療
 が発展したとは云え癌は未だ
 難病、放射線治療等の選択肢
 を含め「どうしたら良いのか」
 と悩み考え抜いたに違いない。
 結局、彼は胃の大半を切除す
 ることにした。駅前の道端で
 出くわし、私が「調子はどう
 や」と尋ねると「胃を切り取
 ったんや」、「大丈夫なんか」、
 「なんとか生きとるよ」と、
 去り際に冗談で「また近々飲
 もうか」と声をかけると、「ハ

6月18日(日) 午前7時〜8時半まで

日曜おあさじ特別法話

お話 保々眞量師(熊本県)



徳風5歳児 池田優月『運動会チャレンジャー』

力。もう飲めんわ」と返され
 笑い合つた。私の頭の片隅を
 過つた不安が、リンパへの転
 移として現実となつた。しば
 らくして、同級生の友人から
 連絡があり「彼が死んだ。葬
 式がある」と知らされた。葬
 儀には沢山の人が弔問に訪れ
 た。

同級生らと一緒に参列した
 私は、導師に合わせ正信偈を
 声にだしてお勤めし、その儀
 式が終了してから、歩み寄つ
 たお棺の中の尊顔を拝^{おが}んだ。
 思わず彼の名を呼び「有り難
 うな」と、もう届かない声を

かけた。過去の沢山の思い出を抱えた私だけでなく、無論その家族の悲嘆は痛切であつたらう。当時まだ年端もゆかぬ小学生だった子供達、絶望のみならず将来の不安や責任をも抱える、最も近くで彼を支えた奥さん。そして親父さん。しかし何故か、最愛の我が子を亡くした母、私からすれば昔から見知ったおばさんの悲痛が自身の胸の内に深く想われ、お悔みを伝えた際も顔を見ることすらできなかつた。後日耳にしたことであるが、故人の新居は実家の仏間を取り壊し敷地とした為、跡取りとして「あとは宜しく頼む」と両親から新しい仏壇を託されたのだが、彼の法名が位牌として最初に安置された。今から三年前、友は四十六歳でその命を終えていった。

周知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大により世界中に激震が走った。時期を同じくして保育園の園長となつた私は、法人運営をはじめ只でさえ慣れない仕事の繁忙に追われつつ、園児と職員を合わせた約二百人と、その同居家族の感染状況の把握から対応に右往左往した。マスクが推奨されない乳幼児、そも三密を避けるなど不可能な子供達の保育に、パーテーションや消毒など対策しつつも三度の休園措置も避けられず、毎日が慌ただしく過ぎていった。生活面でもパートで働く妻と協力し、炊事に洗濯掃除、娘達の弁当に送り迎えなど、日々休む暇もなく必死に動き回つた。忙しいの「忙」の漢字は、まさに立心偏の心が亡いと書く。コロナ禍の非日常では、覚も時間にも穴が空いたような感覚もあり、昨年の命日も失念していたため、今年こそは参ると決めていた。

私服の上に間衣を羽織りお内仏に向き合うと、ふと見た繰り出し位牌の命日欄に「令和四年六月」とあつたため、同席してくれたおばさんにその事を尋ねた。愛煙家でもあつたご主人が肺ガンで亡くなられたのだと聞き、この事実



徳風5歳児 竹内空『運動会リレー』

に私はハッとさせられた。お釈迦さまが悟られた「諸行無常」とは、一つの重大な苦難を乗り越えてなお「愛別離苦」、愛する者との別離の苦しみが続くのであつた。私達は、この人生で出会う、全ての人と必ず死に別れる。順序も寿命も死に様も思い通りにはならない。生きている限り死別があり、その終焉は私自身の死である、何度も法話で語ってきたこの私が忘れていたのだ。本心を振り返れば、三年前の悲しみも時間が多少なりとも癒してくれている。だう、家族も元気で無事にやっている、「心配しなくてもいい」と今は亡き友に伝えられた。都合よく、そのことを私が確認し、安心したかつたのだ。

仏典マンガ

絵：小川ゆきえ (60)

仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』 インドの説話集、世界最古の物語集です。



仏教では、いのちは平等である。と教えらる。それは私達が付加価値により命を評価する罪悪を照らし出している。よく「あの人は長生きしたから大往生や」、「若く死んで可哀想だ」、「病氣や寝たきりなら生きる意味がない」と物差しで比較するが、唯一無二の代わる者の無いのちである。彼も彼なりに生ききった、過去にも未来にも二度と無い一つの人生であった。誰しも明日死ぬかも知れない同じいのち、将来わが子を失うことが有れば私もおばさんと同じ業縁となる。正信偈の最初は「帰命無量寿如来」から始まる。無量寿に帰れと、そも寿とは量れないものなのだ。バラバラで一緒。誰しも生きるということそのものが大変な行であるのに、戦争や差別、分断と諍いの絶えない社会を生きる私達へ、親鸞の遭遇われた本願の言葉が呼び覚まし続けている。

「文章 若院」

若院の伝道掲示板

- 限られた時間のなかに 出遇いあり
- 「私」の主張 人に嫌がられる一番の理由
- 出遇い得た 同じ人をずっと大切にしよう
- 手を合わす 自分に向き合う 深くいただ

日曜おあさじ講師紹介

保々眞量(ほぼしんりょう) 師

熊本県は阿蘇山の麓にある光行寺のご住職で、京都・東本願寺の同朋会館教導をされています。平成28年の熊本地震では、若院が熊本市内のボランティアに赴いた際、訪れた寺の本堂は梁が折れ傾くという甚大な被害を被りました。修復も無事に終えられたようです。とても優しい語り口で日常の生活感覚から仏教の教えを語る素敵な先生です。聴講は無料です。朝の涼しい時間帯に是非ご一緒に聴聞ください。

本堂ライブの告知

日時：7月15日(土)

午後4時～5時半

～NIGA～ Duo Flumen

コロナ禍も多少落ち着き、久しぶりに本堂でのコンサートを開催いたします。以前にアフリカ人を引き連れ、新本堂での灼熱のライブを決行した山下正樹さんが来寺し、今度は奥さんのRISA(マリンバ)さんとの二人組ユニットのライブをしていただきます。クラシックとアフリカ音楽を融合させ、独自の世界観を奏でます。

入場料：一人1千円(ドリンク料込み)、当日受付にて。

小学生以下は無料です。



安婆の縁尽きて

鋤柄	學	94	長篠町	2	21
江口	幸穂	82	東 栄	2	24
服部	保	96	豊田市	3	9
中川	幹夫	100	長 田	3	12
小嶋	鈞	91	東 栄	3	16
清水	正造	87	上重原	3	29
渡辺	さみ子	91	新地町	3	31
加藤	勝博	81	牛田町	4	7
河合	達也	53	内幸町	4	23

前住職祥月法要

日時：6月27日(火)

午後3時より

法話：柳野明仁師

(西尾本證寺・住職)

お盆法要

日時：8月10日(木)

午前8時・10時

法話：高柳正裕師

(回光舎主宰)

墓地一向浄苑の申し経

8月13日(日)、14日(月) 両日ともに午前7時～9時、午後6時～8時まで。

